

2017年7月2日～7月12日まで、ポーランド共和国のクラクフで、第41回世界遺産委員会が開催されました。

世界遺産登録数

新規登録遺産数

分類別合計

文化遺産：18件

832件

自然遺産：3件

206件

複合遺産：0件

35件

総数

1,073件

危機遺産リスト登録数

リスト入り2件

危機遺産 総数
54件

リスト脱した3件

◆ 危機遺産リスト入りした遺産

- ① ウィーンの歴史地区【オーストリア共和国】 ② ヘブロン：アル・ハリールの旧市街【パレスチナ】

◆ 危機遺産リストを脱した遺産

- ① コモエ国立公園【コートジボワール共和国】 ② シミアン国立公園【エチオピア連邦民主共和国】
③ ゲラティ修道院【ジョージア】

※ 危機遺産の一覧表は、本資料のP6～8に掲載してあります。

遺産保有国数と登録数

◆ 新しく世界遺産保有国となった国

新しく、アンゴラ共和国とエリトリア国が世界遺産保有国となり、2017年8月現在、193の加盟国中、**167の国と地域**に世界遺産が存在します。

◆ 上位遺産保有国と保有遺産数

001. イタリア共和国【53件】
002. 中華人民共和国【52件】
003. スペイン【46件】
004. フランス共和国【43件】
005. ドイツ連邦共和国【42件】

日本の遺産数は21件で、12番目に世界遺産を多くもつ国である。

文化遺産

遺産名	保有国名	登録基準
ヘブロン:アル・ハリールの旧市街	パレスチナ自治政府	(ii) (iv) (vi)
ンバンザ・コンゴ:旧コンゴ王国の首都遺跡	アンゴラ共和国	(iii) (iv)
アスマラ:アフリカのモダニズム都市	エリトリア国	(ii) (iv)
コマニの文化的景観	南アフリカ共和国	(v) (vi)
サンボー・プレイ・クックの寺院地区:古代イ シャナプラの考古遺跡	カンボジア王国	(ii) (iii) (vi)
鼓浪嶼(コロンス島):歴史的共同租界	中華人民共和国	(ii) (iv)
アーメダバードの歴史都市	インド	(ii) (v)
ヤズドの歴史都市	イラン・イスラム共和国	(iii) (v)
「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群	日本国	(ii) (iii)
ヴェネツィア共和国の防衛施設群(15-17世 紀):スタート・ダ・テッラと西スタート・ダ・マール	クロアチア共和国、イタリア共和 国、モンテネグロ	(iii) (iv)
クジャタア・グリーンランド:氷帽周縁部におけ るノース人とイヌイットの農業地域	デンマーク王国	(v)
タプタプアテア	フランス共和国	(iii) (iv) (vi)
シュヴァーベン・ジュラにある洞窟群と氷河期 の芸術	ドイツ連邦共和国	(iii)
タルノフスキェ・グルィの鉛・銀・亜鉛鉱山とそ の地下水管理システム	ポーランド共和国	(i) (ii) (iv)
スヴィヤジツクの集落島にある生神女就寝大 聖堂と修道院	ロシア連邦	(ii) (iv)
アフロディシアス	トルコ共和国	(ii) (iii) (iv) (vi)
英国の湖水地方	英国	(ii) (v) (vi)
ヴァロンゴ埠頭の考古遺跡	ブラジル連邦共和国	(vi)

自然遺産

遺産名	保有国名	登録基準
青海フフシル(可可西里)	中華人民共和国	(vii) (x)
ダウリアの景観群	モンゴル国、ロシア連邦	(ix) (x)
ロス・アレレス国立公園	アルゼンチン共和国	(vii) (x)

登録範囲拡大(文化遺産)

遺産名	保有国名	登録基準
ストラスブール: グラン・ディルからヌースタットのヨーロッパの都市景観	フランス共和国	(ii) (iv) *
バウハウス関連遺産群: ヴァイマールとデッサウ、ベルナウ	ドイツ連邦共和国	(ii) (iv) (vi)

* 範囲拡大に伴い、登録基準(i)が削除されました。

登録範囲拡大(自然遺産)

遺産名	保有国名	登録基準
W-アルリ-ベンジャール国立公園群	ニジェール共和国、ベナン共和国、ブルキナファソ	(ix) (x)
カルパティア山脈と他のヨーロッパ地域のブナ原生林	アルバニア共和国、オーストリア共和国、ベルギー王国、ブルガリア共和国、クロアチア共和国、ドイツ連邦共和国、イタリア共和国、ルーマニア、スロバキア共和国、スロベニア共和国、スペイン、ウクライナ	(ix)



青海フフシル(可可西里)
© Peking University



ダウリアの景観群
© Evgeniy Kokukhin

日本国



『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群

Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region

文化遺産

登録年

2017年

登録基準

(ii) (iii)

▶ 古代祭祀の変遷を伝える考古遺跡「沖ノ島」

九州北部の福岡県宗像市と福津市にある『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』は、「沖ノ島」と「宗像大社」「古墳群」の3つの要素で構成される8資産からなる。この3つの要素が一体となって、宗像・沖ノ島の信仰の歴史を証明している。

構成資産の中心となる「沖ノ島」は、九州本土から約60kmの玄界灘の海上に位置し、日本列島から朝鮮半島や中国大陸へと向かう航海上の目印となる島であった。そのため島自体が自然崇拝の信仰を集め、4世紀頃から約500年もの間、**海の航海の安全を祈る場所**として国家的な祭祀が行われてきた。4世紀頃というのは、大和王朝と朝鮮半島の百済の結びつきが強まった時期である。沖ノ島には、そうした**交易の証拠と祭祀の跡**が残されている。

巨岩の上で祭祀を行う「岩上(がんじょう)祭祀」から、庇状になった岩の陰で行う「岩陰(いわかげ)祭祀」へ、そこから「半岩陰・半露天祭祀」を経て、平らな場所で祭祀を行う「露天祭祀」へと、祭祀の形態が変化していったことがよくわかる証拠が残されている。それぞれの場所で「銅鏡」や「金製指輪」、「カットグラス破片」、「雛形五弦琴(ひながたごげんきん)」、「富寿神宝(ふじゅしんぼう)」など、約8万点もの各時代の貴重な奉獻品が発見され、その全てが国宝に指定されている。沖ノ島が、人の訪れにくい海上の島であることや、島自体をご神体とする信仰の中で上陸が禁忌とされてきたことなどにより、奉獻品が「祭祀の証拠」として残されたと考えられる。

「宗像大社」は、自然崇拝から始まった沖ノ島の信仰が、「**宗像三女神**」という人格をもった神に対する信仰へと発展し、その両者が共存しながら「宗像・沖ノ島」の信仰を形作ったことを証明している。また、「露天祭祀」から「社殿をもつ祭祀」へと発展したことも示している。8世紀はじめの『古事記』や『日本書紀』には、「おきつみや」「なかつみや」「へつみや」の名前が記されており、古くより信仰が行われてきた証拠となっている。

9世紀に遣唐使が廃止されると、沖ノ島の重要性が薄れ、国家的な祭祀が行われなくなったが、その間も宗像三女神に対する信仰は続き、17世紀頃から社殿が作られ始めた。



宗像大社は沖ノ島の「沖津宮」、沖ノ島と九州本土の間にある大島の「中津宮」、九州本土の「辺津宮」の三社からなる。それぞれに天照大神(あまてらすおおみかみ)が誓約(うけい)で生み出した宗像三女神を、沖津宮が「田心姫神(たごりひめのかみ)」、中津宮が「湍津姫神(たぎつひめのかみ)」、辺津宮が「市杵島姫神(いちきしまひめのかみ)」と祀っており、三社一体の信仰を作り上げている。

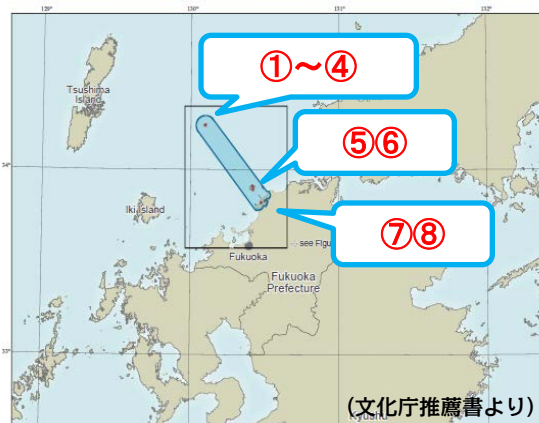
「古墳群」は、5～6世紀頃に築かれた宗像氏の古墳群で、宗像・沖ノ島の祭祀を取り仕切った「宗像氏(別の漢字の表記もある)」の存在を証明するものとして構成資産に含まれた。大和王朝が百済と交易する際に頼ったのが、この地域の豪族で航海技術に長けていた宗像氏であった。彼らの力があってこそ朝鮮半島や大陸との交易が成立したといえる。天武天皇の女官のひとりに宗像氏の娘が就いていることから、大きな力をもった地方豪族であったことがわかる。

ICOMOSの事前勧告では、沖ノ島と小屋島、御門柱、天狗岩の4資産にのみ「登録」勧告が出されたが、世界遺産委員会では三社一体の信仰が評価され、8資産全体での登録となった。登録基準は(ii)(iii)のみ認められ、(vi)は認められなかった。また世界遺産委員会では、緩衝地帯などでの開発の影響評価や、上陸が禁忌とされる沖ノ島への不法上陸対策、遺産の管理体系の明確化などが求められた。

宗像大社 辺津宮



©World Heritage Promotion Committee



(文化庁推薦書より)

	所在地	資産名
①	福岡県宗像市	沖ノ島(宗像大社沖津宮:むなかたたいしゃおきつみや)
②	福岡県宗像市	小屋島(こやじま)
③	福岡県宗像市	御門柱(みかどばしら)
④	福岡県宗像市	天狗岩(てんぐいわ)
⑤	福岡県宗像市	宗像大社沖津宮遥拝所(おきつみやようはいじょ)
⑥	福岡県宗像市	宗像大社中津宮(なかつみや)
⑦	福岡県宗像市	宗像大社辺津宮(へつみや)
⑧	福岡県福津市	新原・奴山古墳群(しんばる・ぬやまこふんぐん)

危機遺産

遺産名	保有国名	登録年
エルサレムの旧市街とその城壁群	エルサレム(ヨルダン・ハシェミット王国による申請遺産)	1982
チャンチャンの考古地区	ペルー共和国	1986
ニンバ山巖正自然保護区	ギニア共和国及びコートジボワール共和国	1992
アイールとテネレの自然保護区群	ニジェール共和国	1992
ヴィルンガ国立公園	コンゴ民主共和国	1994
ガランバ国立公園	コンゴ民主共和国	1984～92, 1996
オカピ野生動物保護区	コンゴ民主共和国	1997
カフジ・ビエガ国立公園	コンゴ民主共和国	1997
マノヴォーグンダ・サン・フローリス国立公園	中央アフリカ共和国	1997
サロンガ国立公園	コンゴ民主共和国	1999
ザビードの歴史地区	イエメン共和国	2000
聖都アブー・メナー	エジプト・アラブ共和国	2001
ジャームのミナレットと考古遺跡群	アフガニスタン・イスラム共和国	2002
バーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群	アフガニスタン・イスラム共和国	2003
アッシュル(カラット・シェルカット)	イラク共和国	2003
ハンバーストーンとサンタ・ラウラの硝石工場群	チリ共和国	2005
コロとその港	ベネズエラ・ボリバル共和国	2005
コソボの中世建造物群	セルビア共和国	2006
古代都市サーマッラー	イラク共和国	2007
ニョコロ・コバ国立公園	セネガル共和国	2007
ベリーズ・バリア・リーフ自然保護区	ベリーズ	2009
カスピのブガンダ王国の王墓	ウガンダ共和国	2010
アツィナナナの熱帯雨林	マダガスカル共和国	2010

遺産名	保有国名	登録年
エヴァーグレース国立公園	アメリカ合衆国	1993～2007, 2010
スマトラの熱帯雨林遺産	インドネシア共和国	2011
リオ・プラタノ生物圏保存地域	ホンジュラス共和国	1996～2007, 2011
リヴァプール海商都市	英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)	2012
パナマのカリブ海側の要塞群:ポルトベロとサン・ロレンツォ	パナマ共和国	2012
アスキア墳墓	マリ共和国	2012
イエス生誕の地:ベツレヘムの聖誕教会と巡礼路	パレスチナ自治政府	2012
伝説の都市トンプクトゥ	マリ共和国	1990～2005, 2012
アレppoの旧市街	シリア・アラブ共和国	2013
クラック・デ・シュヴァリエとカラット・サラーフ・アッディーン	シリア・アラブ共和国	2013
古代都市パルミラ	シリア・アラブ共和国	2013
シリア北部の古代集落群	シリア・アラブ共和国	2013
隊商都市ボスラ	シリア・アラブ共和国	2013
ダマスカスの旧市街	シリア・アラブ共和国	2013
東レンネル	ソロモン諸島	2013
セルー動物保護区	タンザニア連合共和国	2014
ポトシの市街	ボリビア他民族国	2014
オリーブとワインの地ーバティールの丘:南エルサレムの文化的景観	パレスチナ自治政府	2014
サナアの旧市街	イエメン共和国	2015
城壁都市シバーム	イエメン共和国	2015
円形都市ハトラ	イラク共和国	2015
シャフリサブズの歴史地区	ウズベキスタン共和国	2016
ジェンネの旧市街	マリ共和国	2016
ガダーミスの旧市街	リビア	2016

遺産名	保有国名	登録年
キレーネの考古遺跡	リビア	2016
サブラータの考古遺跡	リビア	2016
タドラールト・アカークスの岩絵遺跡群	リビア	2016
レプティス・マグナの考古遺跡	リビア	2016
ナン・マトール:ミクロネシア東部の儀礼的中心地	ミクロネシア連邦共和国	2016
ウィーンの歴史地区	オーストリア共和国	2017
ヘブロン:アル・ハリールの旧市街	パレスチナ	2017